

明治廿七年十一月十五日

有孔類ノ發生 おいすまん先生ノ新著 へるとういつひ先生ノ新著
 單細胞動物ノ核ノ分裂ニ就キタル研究 日光山赤沼ノ Linnædia.

第六卷

四三二

以上五件

S. O. 生

音アルヲ見ル然レ此等ノ音ハ蟻群カ騒カサレタル折ニ
 非レハ發セス Janet 氏ハ此ノ發音ハ此種ノ蟻軀ニ存スル
 疎面カ此ル場合ニハ互ニ相觸レ易キヲ以テ此ク著シク生
 スルモノニシテ其實一種ノ發音器ヲナスモノナリト云ヘ
 リ

●有孔類ノ發生

Fritz Schaudinn 氏カ此下等動物

ニ就テノ研究ハ下ノ結果ヲ示セリ其發生ハ各個軀ニ於テ
 (プロトプラズム)カ數小片ニ分列スルヨリ起ル而ノ其各
 片ハ外壳ヲ分泌シ終ニ老成ニ至ルト其方法ノ如キハ種類
 ニ從テ多少異同アリ左ノ如シ

第一原形質ノ分裂、軀形ヲ形造ル、介壳ノ分泌等都テ

母軀内ニ於テ結了シ次テ幼兒ハ口ヨリ母軀ヲ離ル若
 シ其口小ニ過クレハ其外壳ヲ推壞リテ出ツ

第二分列ハ母軀ノ内ニ起レト裸體ノ(プラズモチャ)トシ

テ外出シ此ニ外壳ヲ生ス

第三原形質ガ相連結セル塊リトシテ母軀ヲ去リ然ル後ニ

前ノ如ク分列ヲ始ム

●おいすまん先生ノ新著 同先生ハ近頃 "Aussch-
 re Einflüsse als Entwicklungsreiz" ト云フ五十ページ餘

ノ一書ヲ世ニ公ニセラレ、すぺんさあ、へるとういつひ
 等ノ諸氏ニ答ヘラレタリ。毎度乍同先生ノ論法ハ能ク論
 理ニ適ヒ感服スルノ外ナシ。

●(へるとういつひ)先生ノ新著 Zeit-und Streitfr-
 gen der Biologie, Heft I. Präformation oder Epigenese?

ハ主トシテわいすまん氏ノ説ニ反セル論文ニシテ余ハ未
 タ之ヲ一讀セザレドモ著者カへるとういつひ氏ナレバ定
 メテ有要ナル書ナルベシ。

●單細胞動物ノ核ノ分裂ニ就キタル研究

ハ近年ニ至リ續々増加シ、其ノ多數ハ異細胞動物ノ核
 ノ分裂ト同様ナル現象ヲ呈スルモノナルカ如シ、即チ中
 軀、染色軀、微粒軀、牽引質等ハ皆單細胞蟲ニ於テ發見
 セラレタリ。

●日光山赤沼ノ Linnædia. 本年八月中ニ熊本高等